

FAO / WHO 合同食品規格計画

第 22 回一般原則部会

日時 : 2005 年 4 月 11 日 (月) ~ 4 月 15 日 (金)

場所 : パリ (フランス)

仮議題

1 .	議題の採択
2 .	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3 .	食品安全のためのリスク分析についての作業原則原案 (ステップ 4)
	リスク分析についての作業原則原案に関する作業部会の結論 (ステップ 4)
4 .	食品の国際貿易における倫理規範の改訂原案
5 .	コーデックス規格の受諾に関する手続きの改定案
6 .	「食品」の定義の改訂
7 .	手続マニュアルの構成及び体裁についての検討
8 .	執行委員会の構成メンバーの任期の明確化
9 .	その他及び今後の作業
10 .	次回会合の日程及び開催地
11 .	報告書の採択

第 2 2 回一般原則部会（CCGP）の主な検討議題

（4月11日～15日、於；パリ）

議題 3 食品安全のためのリスク分析についての作業原則原案

加盟国政府を対象としたリスク分析原則の文書について検討するものである。第 2 1 回本部会前日に、カナダ及びアルゼンチンを議長として開催された作業部会では、文書策定の必要性について半日かけて議論を行ったものの、合意が得られず、あらためて検討することとなった。日本は既に、バイオテクノロジー応用食品特別部会においてコーデックス及び加盟国向けのリスク分析の文書が採択されていること、第 20 回一般原則部会において WTO 事務局から国際植物防疫条約事務局 (IPPC) や国際獣疫事務局 (OIE) は加盟国向けのリスク分析の文書を作成しており食品安全の分野でコーデックスが加盟国向けの文書を作成することは有用であるとされていることを指摘して、文書策定を支持したところであり、引き続き加盟国政府を対象としたリスク分析原則の検討を進めるべきとの立場で対応したい。

その際、コーデックスにおいて適用されているリスク分析作業原則の文書をベースとして検討することが望ましいとの立場で対応したい。

議題 4 食品の国際貿易における倫理規範の改訂原案

食品の国際貿易における倫理規範（1978 年制定、85 年改訂）について、1998 年より改訂原案の検討が行われてきたが、第 20 回本部会において、改訂自体の必要性や目的について、総会に対し意見を求めることとなった。しかし、第 27 回総会においては、他の部会（CCFICS）で対応されているため改訂の検討を不要とする意見と、消費者の健康を守るために、透明性の確保が必要であることから作業を継続すべきとする意見が対立した。このため、総会は、本部会に対し、改訂の明らかな必要性の有無、倫理規範が他の目的を有するか、コーデックス規格等が当該倫理規範の意図するところを満たしているかどうか、解決されない問題は何かなどの質問事項を提示した。

食料の多くを輸入に依存している我が国にとっては、輸入食品の安全確保のため輸入国として柔軟な対応が可能となるよう対処したい。

議題 6 「食品」の定義の改訂

第 18 回本部会にて、食品の国際貿易における倫理規範改訂原案の検討の際に、「食品」の定義が議論され、第 20 回本部会において倫理規範改定原案とは別に議論を継続することとされ、第 27 回総会により新規作業として承認されたものである。これまで、現行の定義の科学的な根拠、「人間による摂取を

目的とする」の意味の明確化、ガムの例示、明らかに食品でないものの除外の例示についての意見が出されてきた。医薬品と明確に分別できる定義とすべきとの従前からの観点から、各国の発言に留意し対応したい。

（参考）現行の「食品」定義

Food means any substance, whether processed, semi-processed or raw, which is intended for human consumption, and includes drink, chewing gum and any substance which has been used in the manufacture, preparation or treatment of “ food ” but does not include cosmetics or tobacco or substances used only as drugs.